

顎関節症

診療ハンドブック



《編》 本田 和也 松本 邦史 小林 馨 新井 嘉則
《著》 五十嵐千浪 江島堅一郎 岡田 明子 川嶋 祥史
 小見山 道 澤田久仁彦 志賀 博 高津 匡樹
 高橋 富久 月村 直樹 野間 昇 濱田 良樹
 本田美知子 山寺 智美 依田 哲也
《イラストレーション》 田代 順子

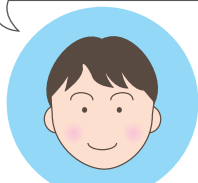
本書の構成

顎関節症の治療を本格的に始めよう。



開業医

潜在患者が多い疾患だからちゃんと勉強したい！



歯科学生

理学療法を学んで、患者さんにわかりやすくお伝えしたい。



歯科衛生士

歯科医療従事者

もしかして、顎関節症なのかな？



顎関節症患者

<章の解説>

初めに顎関節症の全体像を捉え、診査/診断、治療の流れに沿って、本書を読み進めてください。最後の第4章には、顎関節症に関わる広範的な情報も掲載しています。

知る

第1章 顎関節症の概念

顎関節症の3大症状は、顎関節や咀嚼筋の疼痛、関節（雑）音、開口障害あるいは顎運動異常です。顎関節症の治療を始めるには、先ず顎関節や筋肉の解剖を理解する必要があります。顎関節症には、筋肉の問題で生じる筋性顎関節症と、関節の問題で生じる関節性顎関節症があり、さまざまな要因によって発症する病気です。これらについて、代表例を交え説明します。

診る

第2章 顎関節症の診査/診断

顎関節や咀嚼筋の疼痛、関節（雑）音、開口障害あるいは顎運動異常を引き起こしうる疾患は、顎関節症以外にも多く存在します。医療面接により患者さんの問題を聴取し、適切な検査プロトコルに基づき診査/診断を進め、鑑別することが大切です。その中でも、近年著しい進歩を遂げた画像検査には大変重要な意味合いがあります。顎関節症の診査/診断について詳しく説明します。

治す

第3章 顎関節症の治療

顎関節症治療では、患者さんが抱える痛みの解消が重要です。しかし、痛みの原因には様々な要因があります。顎関節に負担をかけるような癖の改善指導や、患者さん自身が抱えるストレスの解消を促すことも治療法の一つです。また理学療法による筋ストレッチや筋マッサージも重要です。歯科の一般診療とは異なるこれらの治療について詳しく説明します。

識る

第4章 顎関節症の現況/動向

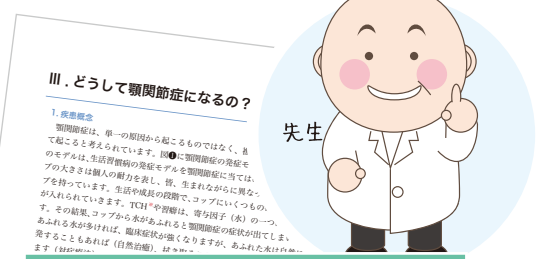
2013年に顎関節症の疾病概念が新たに定義され、以前の分類から変更が行なわれました。規格化・標準化された新たな考え方はDC/TMDと呼ばれ、国際標準の診断基準になると考えられています。

また、顎関節症治療に係る療法などは広く保険収載されており、これから顎関節症治療をスタートされる際にお役に立つよう診療録の記載例も掲載し、顎関節症の現況・動向をご紹介します。

先生！
教えて
teacher!
ティミー



『ティミー』のいるページは患者さん向けです。
患者さんへの説明にもご活用いただけます。



III. どうして顎関節症になるの？

1. 発症概念
顎関節症は、単一の原因から起こるものではなく、**Ⅱ**で起こると考えられています。Ⅱは顎関節症の発症モデルは、生活習慣病前の発症モデルを顎関節症に当てはめるの大きさは個人の耐性を表し、生活や成長の段階で、コップにいくつもの穴が空けられています。生活や成長の段階で、コップにいくつもの穴が空けられています。生活や成長の段階で、コップにいくつもの穴が空けられています。生活や成長の段階で、コップにいくつもの穴が空けられています。

さらに理解を深めていただくため、
図解・写真を多用しました。



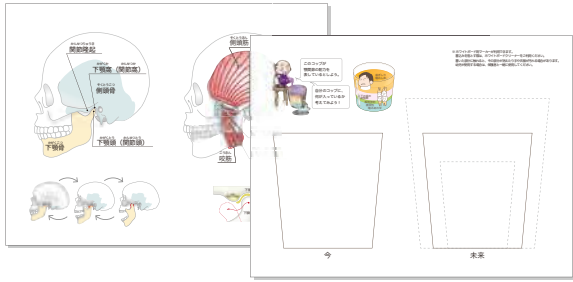
使う 付録

付録として臨床ですぐに使える帳票類を掲載しました。
本書記載のURL から掲載帳票をダウンロードできます。



さらに！

巻末に繰り返し書き込んで消せる説明ツールをご用意しました。
市販のホワイトボードマーカーで書き込めます。
切り離してご使用いただけます。



目次

序文	i
執筆者一覧	ii
本書の構成	iv
目次	vi

第 1 章 顎関節症の概念

I . はじめに	2
(本田 和也)	
II . 顎関節のつくり	6
1. 顎関節の解剖	6
(江島堅一郎)	
2. 筋肉の解剖	8
(高橋 富久/本田美知子)	
III . 顎関節症になると起こる問題	18
1. 顎関節の3大症状	18
(澤田久仁彦)	
2. 筋性顎関節症	22
(野間 昇)	
3. 関節性顎関節症	24
(松本 邦史)	
IV . 顎関節症の原因	28
1. 疾患概念	28
(松本 邦史)	
2. 習癖	30
(山寺 智美)	
3. 咬合	34
(月村 直樹)	

第 2 章 顎関節症の診査 / 診断

I . 顎関節症を調べるためのコミュニケーション	40
医療面接	40
(小見山 道)	
II . 顎関節症の検査	44
1. 口腔内外診査	44
(小見山 道)	
2. 画像検査	51
1) パノラマエックス線検査	52
(新井 嘉則/松本邦史)	
2) 歯科用 CT 検査	55
(新井 嘉則/松本邦史)	
3) MRI 検査	61
(小林 馨)	
3. その他の特殊な検査	73
(志賀 博)	
1) 咬合検査	73
2) 顎運動検査	75
III . これは顎関節症かな?	79
顎関節症の鑑別	79
(岡田 明子)	

付 録

問診票	140	顎関節症 自分で治そう予防しよう	146
構造化問診	141	噛み合わせ日記	147
検査用紙	142	顎関節症 経過観察用シート	148
診断樹	144		

索引	149		
ホワイトボード：顎関節の構造・コップの概念			巻末

第 3 章

顎関節症の治療

I . 顎関節症はどう治療する？	92
治療概念	92
(松本 邦史)	
II . 顎関節症の治療法	95
1. 生活指導	95
(本田 和也)	
2. 理学療法	98
(本田 和也)	
3. スプリント	106
(高津 匡樹)	
4. 薬物療法	112
(野間 昇)	
5. 咬合療法	114
(志賀 博)	
6. 外科療法	118
(濱田 良樹)	

第 4 章

顎関節症の現況 / 動向

I . 顎関節症の分類	123
(五十嵐千浪)	
II . 国際的な顎関節症の考え方	128
(小見山 道)	
III . 顎関節症と保険診療	130
(依田 哲也)	
IV . 顎関節症の専門書の紹介	137
(五十嵐千浪)	

Column

有床義歯咀嚼機能検査	75
(本田 和也)	
顎関節症の小手術	120
(松本 邦史)	

症 例

不適切なマウス ガードの使用	36
疼痛	37
関節 (雑) 音	38
脳腫瘍	87
群発頭痛	89

咀嚼筋痛障害 (I型)	124
顎関節痛障害 (II型)	124
顎関節円板障害 (III型)	
a. 復位性	125
b. 非復位性	125
変形性顎関節症 (IV型)	125

スプリント	131
薬物療法	133
画像検査	135
(パノラマ・MRI)	
画像検査	70
(パノラマ・MRI・CT・術式)	

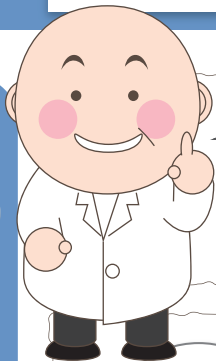
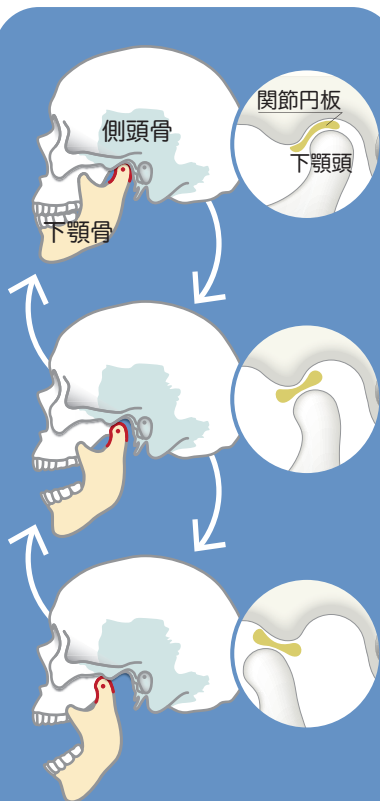
顎関節のつくり

顎関節の解剖



口の2大機能

「食べること」「話すこと」は、
どちらもあごを動かすことで機能します。

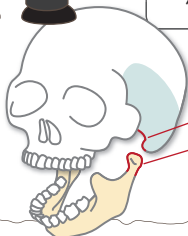


人間のあごは、噛む動きはもちろん、

片方だけで噛んだり、すり潰すような動きをしたり、
色々な動きができるんだ。



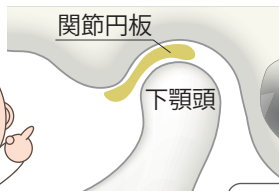
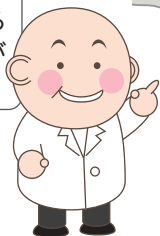
顎関節は、側頭骨と下顎骨の2つの骨で構成されているよ。



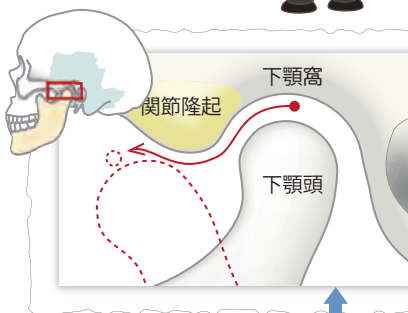
下顎窩(かがくか)のくぼみに下顎頭(かがくとう)が収まっているんだよ。



この2つの骨の間にクッションの役目をする線維組織：関節円板があるんだよ。



そして、顎関節にはもう1つ特別な構造があるんだ。



口を開けるときの

下顎頭が下顎窩から前の方に出て、関節隆起を越えて移動。

口を閉じるときの

逆を辿って下顎頭は下顎窩に戻る。

ドングリ帽子よりもっともっと複雑...

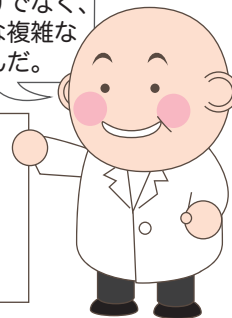
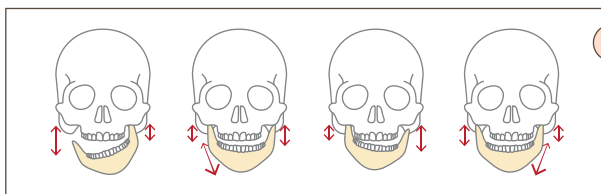
顎関節は、他の関節と比べるととても複雑な動きをします。



ただの歯を噛む運動じゃないんだ！

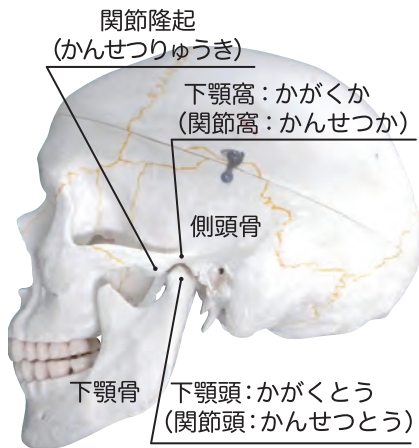
この動きが左右別々にできるから、下あごを前後左右に動かすことができるんだよ。

だから噛むだけでなく、すり潰すような複雑な動きもできるんだ。



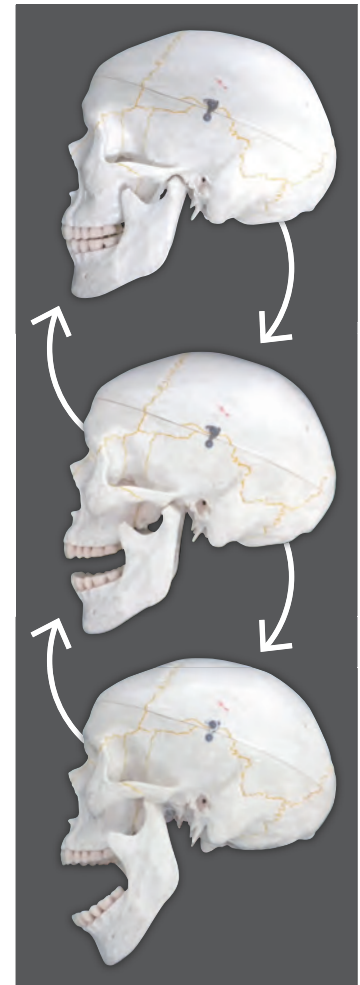
II . 顎関節のつくり

1. 顎関節の解剖



図① 顎関節の構造

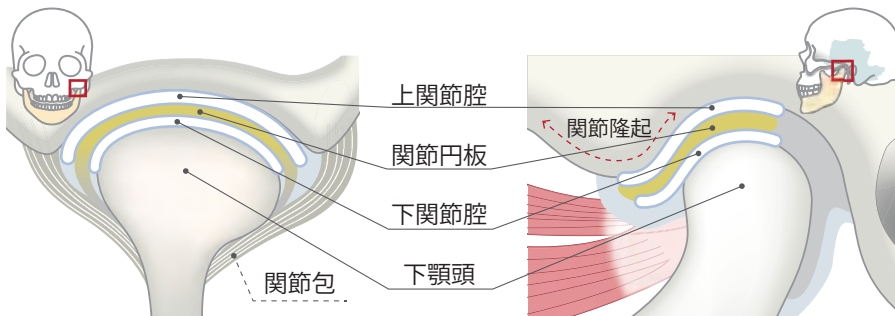
顎関節は、下顎骨の下顎頭（関節頭）、側頭骨の下顎窩（関節窩）および関節隆起からなり、大きく2つの骨で構成されています（図①）。最大開口時は、下顎頭が下顎窩から前方へ移動し、関節隆起を越えます。閉口時はその逆の軌跡をたどって、下顎頭は下顎窩へ戻ります（図②）。



図② 開閉口時の下顎頭の動き

顎関節は頭蓋骨の左右にあり、単純な開閉口や前方運動時であれば左右同時に動きますが、側方運動時には左右それぞれが別々な動きをします。

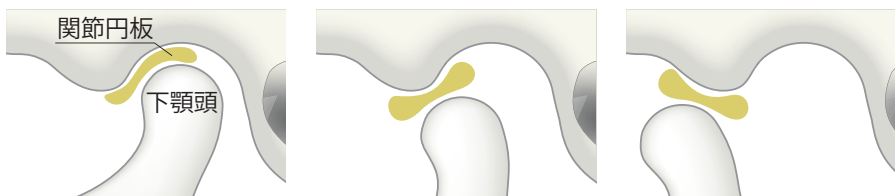
下顎頭と下顎窩の間には、関節円板という線維組織があり、クッションの役目を担っています。これら関節円板および下顎頭・下顎窩は、周囲を靭帯や筋肉で囲まれています。関節円板の上方には上関節腔があり、関節円板の下方には、下関節腔という空隙があります（図③）。



図③-1 前から見た顎関節

図③-2 横から見た顎関節

関節円板は、下顎頭が移動すると連動して動きます。そのため、関節隆起の直下に下顎頭が位置したときには、この関節円板がクッションとしての役目を果たしています（図④）。



図④ 関節円板の動き